

スタッフのスキルアップを全面的にサポートし チーム医療による充実した糖尿病治療を実践

専門である循環器疾患とともに糖尿病の治療にも精力的に取り組んできた美田内科循環器科クリニックでは、各職種の専門性を生かした療養指導に加え、生活習慣の改善に取り組むための場を提供することで、実績を積み上げてきました。同クリニックの治療方針やスタッフ教育などについて、院長の美田晃章先生に伺いました。



院長 美田 晃章先生

実践的な療養指導で生活習慣を改善

「総合病院で循環器疾患を診る中で、急性期の治療を終えた後のフォローや再発予防の重要性を痛感しました」と語る美田先生。そして、自らそうした役割を担うクリニックをつくることを目標に、1999年4月に美田内科循環器科クリニックを開業しました。当初は専門である循環器疾患を中心に診療に当たってききましたが、糖尿病の合併症として循環器疾患を発症するケースが少なくなく、また、糖尿病の初期で受診する患者さんも増加したことから、糖尿病治療を2つ目の柱と位置付けるようになりました。現在では患者さん全体の約3割が糖尿病だそうです。

治療に当たっては、薬物療法とともに療養指導にも重点を置いており、中でも食事指導には特に力を入れて取り組んでいます。「食生活の改善には、患者さん本人の努力に加え、食事を作るご家族の協力が欠かせません。そこで、男性患者さんの場合は、できるだけ奥様同伴で指導を受けてもらうようにしています。また、一般的な食事指導だけでなく、低カロリー食の調理方法を学んで味わう調理実習を定期的で開催したり、

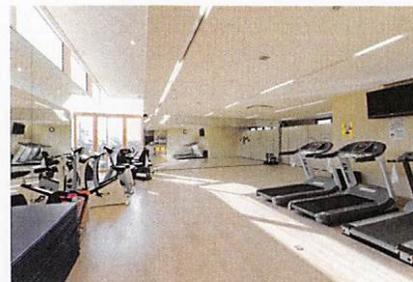
院内にカロリーコーナーを設けて視覚的に認識してもらうなど、楽しみながら食生活の改善に取り組めるような工夫も凝らしています」

食事指導とともに治療の両輪を成す運動療法では、施設内にフィットネススタジオを設け、健康運動指導士がマンツーマンで指導を行っています。「医師から『運動しましょう』と言われても、患者さんは何をどのくらいすればよいのか分からないものです。そこで運動への取り組み方を具体的に提示し、実践してもらうための環境を整えました」。施設は都合のよい時間に無料で利用可能で、多くの患者さんが運動に励んでいます。

このように充実した療養指導により糖尿病治療を進めている同クリニックでも、長期にわたり患者さんのモチベーションを維持していくことは決して容易ではないそうです。先生は、日々の診療で患者さんに指導する際の目標設定がその重要なポイントになると言います。「高過ぎる目標を設定すると、取り組む前からやる気を失ってしまいますので、患者さんが実現できるレベルの目標を設定します。そして、クリアできたときには、『よく頑張りましたね』と褒め、その次はもう少し努力すれば到達可能な目標を設定するのです。こうして小さな成功体験を積み重ねることが、治療に対するモチベーション維持につながっていくのです」

CDE 取得に向けた取り組みが スタッフの意識を高める

同クリニックでは診療の質のさらなる向上を目指し、チーム医療を推進しています。中でも重要な役割を果たしているのが看護師です。糖尿病の診療では、血液検査の結果が出るまでの時間を利用してヒアリングを



▲多くの患者さんが運動に励んでいるフィットネススタジオ

行い、聞き取った情報は電子カルテを通して先生に伝達します。また、食事指導や運動指導の必要性が認められた場合には、管理栄養士や健康運動指導士と連携して事前に各種指導の手配の準備をするなど、積極的に先生の診療をサポートしています。

一方、薬剤師や管理栄養士も待合室で診療を待つ患者さんに積極的に声を掛け、それぞれの専門的な見地から情報収集に努めています。「薬剤師や管理栄養士との会話では、医師や看護師には言えない本音を口にすることがあります。そうした情報を共有し、きめ細かな診療へとつなげる点もチーム医療のメリットといえるでしょう」と先生は話します。

このように、スタッフの自発的な活動が特徴的な同クリニックのチーム医療ですが、現在の体制が出来上がるまでには開業から10年近い時間を要したと言います。「開業当初はスタッフ全員で糖尿病学会や勉強会に参加するなどして、各自がスキルアップに励んできました。その後、糖尿病療養指導士(CDE)の資格取得を院内の目標として掲げ、院内研修などを実施していったことが『糖尿病を専門的に診る』という自覚を促し、スタッフのレベルアップに勢いがついたように思います」

先生は、スタッフの学習意欲を後押しすべく、学会等への出席や資格取得にかかる費用は全て負担する他、資格取得者には手当を支給しています。こうしたバックアップ体制もスタッフの自主性を育み、診療の質の向上につながっているようです。「毎年、年初にスタッフ一人ひとりが目標を立て、達成に向けて研さんを積んでいます。近年では糖尿病と認知症を併発している

患者さんが増えており、介護関連施設との連携も重要度を増していることから、看護師主任がケアマネジャーの資格取得を目標に掲げ、見事に達成しました。私が指示をしなくても、クリニックに必要なものは何かを各自が判断し、自主的に取り組む雰囲気は定着したことを実感しています」

工夫を凝らした企画で 患者さんの意欲を向上させる

患者さんを対象とした啓発活動やイベントが盛んな点も同クリニックの特徴の1つです。通算100回を超える「健康教室」では、先生やスタッフが講師を務め、様々なテーマで情報を発信しており、毎回多くの患者さんが参加しています。「一般論の解説で終わらないように、院内で実施した患者さんのアンケート結果なども取り入れています。例えば、ある回ではアンケート結果に基づいて“間食”をテーマに話をしました。自分自身の回答も含まれた身近なデータは理解を得やすく、自らの生活習慣を見直すきっかけになります。また、患者さん同士で情報交換をしたり成功体験を共有したりすることで、モチベーションを向上させる効果もあるようです」

その他にもスタッフの伴奏で歌を楽しむ「歌声喫茶」、出店やフリーマーケットなどで賑わう「健康フェスタ」など、数多くのイベントを開催しています。「楽しみながら健康になれる。これからもそんなイベントを開催していきたいですね」と美田先生。患者さんの健康を支えつつ、人々が集う場を提供するスタイルは、地域に根差したクリニックの新しい在り方といえるかもしれません。

DATA
医療法人社団
美田内科循環器科クリニック
【所在地】〒006-0852
札幌市手稲区
星置2条4-7-43
【TEL】011-685-3300
【診療科目】内科、循環器科

